【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成20年9月18日(2008.9.18)

【公表番号】特表2008-516241(P2008-516241A)
【公表日】平成20年5月15日(2008.5.15)
【年通号数】公開・登録公報2008-019
【出願番号】特願2007-535862(P2007-535862)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　27/12　　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　27/04　　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　27/22　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　27/12　　Ａ
Ｇ０１Ｎ　27/04　　Ｐ
Ｇ０１Ｎ　27/22　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成20年7月29日(2008.7.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
金属酸化物センサのアレイの応答を、前記センサアレイの周囲に提供される多成分ガスの成分および濃度に変換する方法であって、
対応する予測モデルに関連する品質係数を計算し、前記センサアレイの前記応答が好ましい範囲内にあるか否かを判断する自己診断モジュールを提供するステップと、
好ましい限界内にある品質係数を取得することができるように、経時的に前記応答の変化を補償するか、または前記応答を停止し誤りを報告する自己補正モジュールを提供するステップと、
各予測モデルからの前記ガス濃度出力と、対応する許容限界と、対応する品質係数によって前記予測モデルからの前記出力を重み付けし重み付き許容限界を確定することによって確定されるガス濃度出力と、を計算し、それにより、前記許容限界が最低である前記ガス濃度出力を、前記多成分ガスの実際の成分および濃度として報告することができるようにする、濃度計算モジュールを提供するステップと、
を含む方法。
【請求項２】
前記自己診断モジュールが、前記センサ応答、センサ温度値、または任意の補助センサデータの任意の値のうちの１つに対し、線形変換または非線形変換のうちの１つを実行する、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記自己補正モジュールが、前記センサアレイに対する自己参照プロセスをリアルタイムに提供する、請求項１に記載の方法。
【請求項４】
前記自己補正モジュールが、前記センサアレイに対する温度補正プロセスをリアルタイムで提供する、請求項１に記載の方法。
【請求項５】

前記自己補正モジュールが、前記センサアレイに対するドリフト補正プロセスをリアルタイムに提供する、請求項１に記載の方法。
【請求項６】
前記自己補正モジュールが、前記自己補正モジュールが前記センサ応答における前記変化を補償することができないと判断し、前記センサアレイがデータを処理するのを所定時間停止し、誤りを前記センサアレイに報告し、連続した誤りの数が所定数を上回る場合、再びデータの処理を開始しない、請求項１に記載の方法。
【請求項７】
前記濃度計算モジュールが、各予測モデルに対し前記ガス濃度出力および許容限界を計算する、請求項１に記載の方法。
【請求項８】
金属酸化物センサのアレイの応答を、前記センサアレイの周囲に提供される多成分ガスの成分および濃度に変換する方法であって、
対応する予測モデルに関連する品質係数を計算し、前記センサアレイの前記応答が好ましい範囲内にあるか否かを判断する自己診断モジュールを提供するステップと、
各予測モデルからの前記ガス濃度出力と、対応する許容限界と、対応する品質係数によって前記予測モデルからの前記出力を重み付けし重み付き許容限界を確定することによって確定されるガス濃度出力と、を計算し、それにより、前記許容限界が最低である前記ガス濃度出力を、前記多成分ガスの実際の成分および濃度として報告することができるようにする、濃度計算モジュールを提供するステップと、
を含んでなる方法。
【請求項９】
好ましい限界内にある品質係数を取得することができるように、経時的に前記応答の変化を補償するか、または前記応答を停止し誤りを報告する自己補正モジュールを提供するステップをさらに含む、請求項８に記載の方法。
【請求項１０】
前記自己補正モジュールが、前記センサアレイに対する自己参照プロセスをリアルタイムに提供する、請求項９に記載の方法。